



人物像付き双塔形笛吹きボトル(東海大学文明研究所蔵 11571-347)のレプリカ制作実験

つちくれ
その土塊には 命の鳴動が託された
ボトルの迷宮に秘められた音色

建築博物教室 第21回 公開ギャラリーセミナー

土笛のアーキテクチャ

特別展示『ボトルビルダーズ——古代アンデス、壺中のラビリンス』関連イベント

真世土 マウ(岡山県立大学デザイン学部 准教授/セラミックデザイン)

日時: 2020年11月14日(土) 13:30~15:00

会場: 東京大学総合研究博物館小石川分館、およびオンラインでの開催

入場: 無料(事前申し込み・抽選制。詳細についてはHP内の[開催要領](#)を参照のこと)

土笛のアーキテクチャ

真世土 マウ



(上) 動物像付き双塔形笛吹き
ボトル (BIZEN 中南米美術
館蔵) のオリジナルとレプリ
カ群。(左より)オリジナル、
3D プリントレプリカ、インダ
ストリアルクレイレプリカ、
土器レプリカ、3D プリント
レプリカ(半裁)。

(下) 笛吹きボトルに内蔵された
笛玉や共鳴室の模式的レ
プリカ群。

南米大陸に花開いた古代アンデス文明では、個性的な表現の土器が数多く生み出された。笛吹きボトルはその好例で、内部に仕込まれた「笛玉」に空気を誘導する精妙な仕かけにより、生き生きとした音を奏でる。そのモチーフは人物や動物など命あるものが圧倒的に多く、陶工たちはそこに生命力を表現したのではないだろうか。このレクチャでは講師が笛玉などのパーツ制作を実演し、古代アンデス美術の豊かな表現を支えている、きわだった製陶技術の高さを解説する。

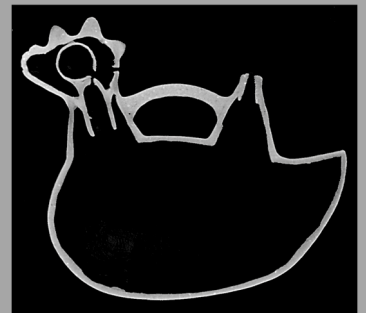


真世土 マウ (ませど まう)

2004 年～2006 年、モンテレイ工科大学(メキシコ)デザイン学科非常勤講師。
2014 年～現在、岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科准教授。

中米に生まれ、先スペイン期の陶芸の世界を自分なりに探求できたことが、私の研究の基礎になっている。審美的な視点から陶芸を学び、製作過程の分析を通じて、古代の作品に使われた技法を考察するようになった。研究において広く客観的な視野を持つために、分析の方法としてつねに自身でレプリカを制作し、さらに教材として活用している。

2006 年 瀬戸市美術館 招聘作家作品展
2003 年 メキシコ国立セラミックコンペティション 陶彫カテゴリー(賞)
2000 年 第8回日本現代陶彫展(入選)



鳥象形橋付き笛吹きボトル (BIZEN 中南米美術館蔵) の内部構造の X 線 CT による観察 (東京大学総合研究博物館撮影)

東京大学総合研究博物館小石川分館

〒112-0001 東京都文京区白山 3-7-1
Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間: 10:00-16:30 (入館 16:00 まで)
入館料: 無料
休館日: 月・火・水曜日
(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日

アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩 8 分
<http://www.um.utokyo.ac.jp/architectonica/index.html>

建築博物教室とは?
「アーキテクチャ」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ
KOISHIKAWA Annex.
UMUT
東京大学総合研究博物館小石川分館